

しん がん
真贗

— 偽装社会への備え —



箱根神社と富士山（神奈川県）

季節はいつの間にか冬へと移り変わり、つい先日まで酷暑にあえいでいたのが嘘の様です。季節の移り変わりを見るにつけ、人間の日々の暮らしを超越した天地の法則に則った大きな動きを感じます。こうした大自然の動きの中で、人間社会は過去の歴史に学ぶことなく、相変わらず欲望と権力の闘争に明け暮れ、哲学の無い独裁者による専横政治が、再び世界の平和を脅かしている現状にあります。

先日、友人の映画監督・紀里谷和明氏からAIの技術を見せてもらい、その精度の高さに驚きました。AIが作った女優が、AIが書いたシナリオでAIが作った声で語っており、映像だけではもはや実物と偽物と判別できないレベルでした。

近年こうしたAIの技術を使ったさまざまな犯罪が後を絶たず、その巧妙さも進み、社会に益々悪影響を及ぼしてきています。

日本はかつて性善説的な価値観を持つ、世界でも稀有な民度の高い国家であったと思っておりますが、近年身近に起こる今までの常識を超えた犯罪の増加を見るにつけ、我々は個々に正しい判断力を養う必要があると思っています。

孟子は、
「我よく言を知る」
と言っています。
具体的には、世にはびこっている思想に間違った思想が四種類あると言っていて、

1つ目は「ひじ かたよ 謾辭」：偏った議論

無内容で浅薄で偏った話

2つ目は「淫辭」：でたらめな議論

近隣の独裁国家の様に、自国の利益の為には堂々と嘘を言ってでも自分の思うところを強引に通そうとする話

3つ目は「邪辭」：胸に一物を持つ邪な理屈

都合良く作り上げた虚偽の話

4つ目は「遁辭」：責任回避の逃げ口上

というもので、今から約2300年程昔、孟子が言った真偽の判断力の大切さは、文明が進化し複雑化してきた今日、型を変えて更に重要になってきていると考えます。

こうした時代において我々は、直接自分の「眼で見て」、「耳で聴いて」、「肌で感じて」、自分の確固とした「判断基準で判断する」力を養ってゆく必要性を強く感じる最近です。

徳真会グループ
代表 松村 博史